

地域人材による地域主導の公共交通利用促進に関する研究(第9弾) —MaaSを利用した新たな地域・交通サービスの提案—

大分大学経済学部経営システム学科交通論研究室 大谷樹・明石真奈・泉理菜・西崎凜々・前田咲耶・弓削敦矢
豊後大野市まちづくり推進課 古庄英之・進司裕治
日本工営株式会社福岡支店 高峯高・岡田紗季・許斐信亮
大分大学経済学部 大井尚司



本研究の背景と目的

過疎地の問題
・身体的負担や経済的負担の増大
・移手段の減少

自治体
移動サービスを提供
→利用者少ない

移動サービスと住民ニーズの不一致？

本研究の目的
生活に根差した交通とは？
移動目的や生活の豊かさを生むものと移動を結合したサービスとは？

調査対象地域と概要

【調査対象地域】

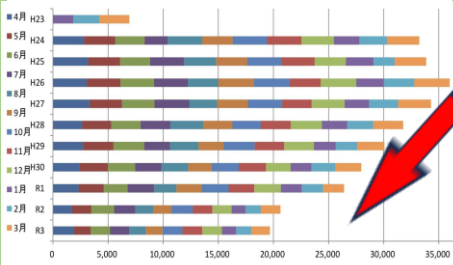
豊後大野市大野町にある3地区
安藤・沢田・中土師

	人口(人)	世帯数(世帯)	高齢者(人)	高齢化率(%)
安藤	44	28	36	81.8
沢田	35	23	29	82.9
中土師	54	28	34	63.0

豊後大野市提供資料より作成

【コミュニティバスの現状】

豊後大野市全体におけるコミュニティバスの利用者



出所 豊後大野市(2022)『豊後大野市地域公共交通計画』p.39

2014年 35,983人(ピーク時)

2021年 19,679人

ほぼ半減!

【コミュニティバスの課題】

① 利用者減少

② 住民の意識

<コミュニティバスを利用しない理由>

- ・自家用車を運転する
- ・家族等に送迎してもらう
- ・バス停まで歩くのが困難
- ・バス停にベンチが無い
- ・運行本数が少なく、利用したい時間にバスが無い

③ 財政負担の増加

- ・燃料費や人件費の高騰
- ・補助金の減少



プロジェクトの内容

【調査対象地域の集落調査】

	安藤	沢田	中土師
免許所有率	71%	88%	74%
自家用車所有率	66%	67%	64%
買い物の移動	大野町 三重町 大分市	大野町 三重町 大分市	大野町 三重町
頻度	週1回	—	週2,3回
病院の移動	大野町 三重町 大分市	大分市	大野町 三重町 大分市
頻度	週1,2回 月1,2回	週1回	週1回
コミュニティバス	認知度 91% 利用率 27%	認知度 92% 利用率 利用者なし	認知度 93% 利用率 7.4%

●住民が抱える移動の問題点 「歩く距離が長く大変」

施設の点在



移動負担を軽減するための移動目的の集約が必要ではないか？

【社会実験】

・公民館に各サービスを集合

医療(オンライン診療、服薬指導)
買い物(移動販売)
生活サービス(郵便局、理容室、市役所(マイナンバー申請)、携帯電話相談)
サロン

・移動は乗合タクシー



【ヒアリング事後調査】

<意見と傾向>

- ・住民同士の交流が高評価
- ・オンライン診療は簡単な診断は理解可能
- ・永住意思がある
- ・免許返納後は公共交通を利用する
- ・タクシー型の公共交通が好まれる傾向

<課題>

- ・自家用車に依存
- ・免許返納意思があるが、移動への不安があり、返納しにくい
- ・地域コミュニティの弱体化

サロン型MaaSの提案

生活機能を地域拠点に集める

交流の場を活性化させる

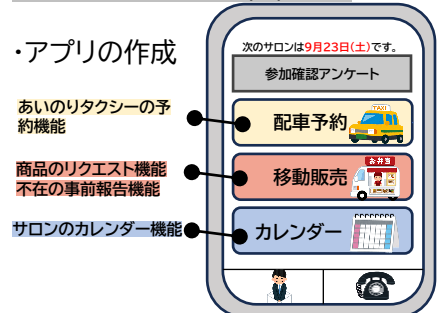
生活の為に移動手段の確保

サロン型MaaS

<サロン型MaaSの流れ>

前日 ~17:00	<予約作業> オンライン診療・あいのりタクシー
当日 8:50~9:00	家→あいのりタクシー→公民館
当日 9:00~9:30	<公民館> オンライン診療・移動販売・サロン等
当日 9:30~11:00	公民館→あいのりタクシー→地区外 (行政機関・スーパー・郵便局等)
当日 11:00~11:30	地区外→あいのりタクシー→公民館
当日 11:30~12:00	<公民館> 座談会・サロン等
当日 12:00	公民館→あいのりタクシー→家

<サロン型MaaSの仕組み>



住民のスマホにインストールするか、公民館内にタブレットを設置

<実現課題>

- ① 整備コスト(タブレット、wi-fi)
- ② 予約システムの構築
- ③ 協力団体の確保
- ④ デジタルデバイドの解消

結論

サロン型MaaSに期待できる効果

住民の移動負担の軽減

地域コミュニティの維持

心理的ハードルの低下

「あいのり」型の交通を進めるには、住民同士の繋がりが重要!

